



Biz Com

<http://www.rikkyo.ac.jp/sindaigakuin/bizsite/graduate/bizcom.html>

16期生歓迎号
— ビジネスシミュレーション結果発表 —

2017
VOL.54



CONTENTS

01 巻頭インタビュー 庄司 貴行 教授

02 ビジネスシミュレーション
プラン紹介

04 15周年記事、BDフォーラム、MBA-March

05 研究会紹介

06 RBSだより

07 退任教員紹介

08 修了生インタビュー 杉山 章さん

立教大学ビジネスデザイン研究科 教授

庄司 貴行

Takayuki Shoji

「パースペクティブのリセットと 仮説思考によって ビジネスをクリエイトする」

今号では、4月より前期課程主任に就任される庄司教授にインタビューを行いました。新座キャンパスにある観光学部でも教鞭を取られている庄司教授に担当される授業や、教える際の学部生と社会人学生との違い、ビジネスデザイン研究科への思い等を伺いました。



—簡単に庄司先生の自己紹介をお願いします。

立教大学社会学部社会学科を卒業後、シカゴ大学、ロンドン大学、オックスフォード大学の大学院を経て、2002年度より、立教大学で独立研究科のビジネスデザイン研究科と社会学部から独立した観光学部で教鞭を取っております。去年の9月までは一年間の研究休暇を頂き、英国で研修活動に勤しんでおりました。主な研究の題材は社会学の観点からアプローチを行う「経営組織論」と「人的資源管理」(HRM)です。

— RBSで担当する授業・授業内容について教えてください。

2012年より大学院の正規科目となっている「ラグジュアリービジネス論」を担当します。研究休暇時に欧州のビジネススクールで学んだ最新の情報を網羅しながら、RBSにおけるラグジュアリービジネスの分野を拡充して参りたいと考えています。将来的にはRBSの学生とその分野を学んでいる欧州のビジネススクールの学生が相互に交流が持てるような環境を作っていきたいと考えています。もう一つは留学生あるいは就労経験のない学生向けの授業である「日本の産業と経済」を担当します。終身雇用など日本の企業社会について基礎的な知識を学ぶことができる科目となっています。

—学部生と社会人学生を教える際の違いはありますか。

学部生は経験が少ないため状況説明が必要となります。理論だけでなく、具体性を持って説明するように心がけています。一方で、社会人学生は経験に基づいた理論的なフレームワークを持っているので、そのフレームワークを壊して、違う視点からも考える機会を提供するようにしています。

—立教はホスピタリティや観光に強いイメージがありますが、今後のビジネスデザイン研究科はどのように変わっていくとお考えですか。

ビジネスデザイン研究科では、専門性を持ったゼネラリストの育成を特徴としています。経営者の仕事の一つに、次にどのようなビジネスを展開するかを考えなければならないので、新規事業を考える経営者の育成については今後も重要だと考えています。観光産業と一般に言われると、狭い領域に考えられがちであるが、私自身は狭く考えておりません。あらゆる事業領域で「観光化」が進んでいると考えています。例えばフランスのミシュラン社が発行しているミシュランガイドの真の目的は車に乗って、飲食店に行ってもらおうということがあります。その行動が間接的にタイヤの消費に繋がるのです。店の雰囲気や商品の手渡され方など、「顧客接点」のあり方でその評価が大きく変わります。どうやって喜んでお金を使ってもらおうのかを考えることが大切で、価格や品質だけではもう売れない時代になっています。単なる観光業に留まらず、こういったことも含めて「ホスピタリティビジネス」と呼ぶべきだと思っています。経営者には多くの事業領域でこの考え方を取り入れてほしいですね。

—ご自身の人生に影響を与えた究極の一冊がございましたら、教えてください。

大学院時代に読んだ一橋大学名誉教授の野中郁次郎氏と、ハーバード大学経営大学院教授の竹内弘高氏が共同で著した『知識創造企業』です。日本企業が成功した理由を、独自の理論体系を構築して説明したものとなっています。